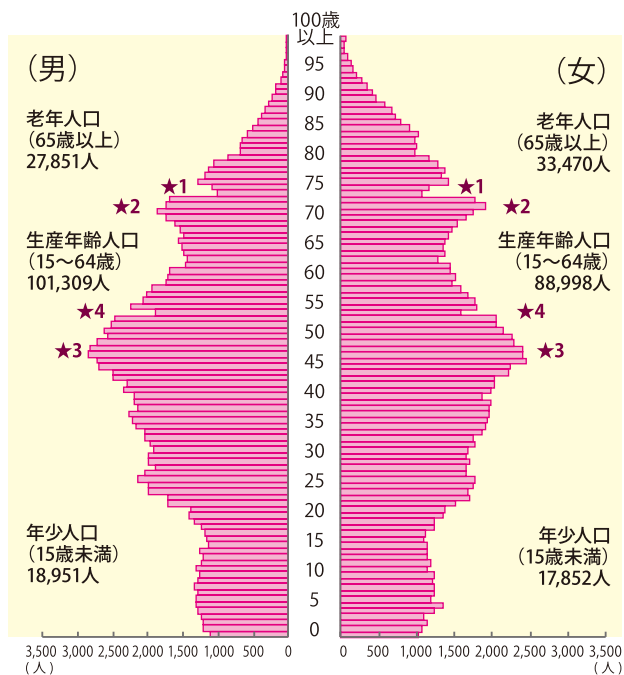


2 年齢別の人口

● 人口ピラミッド

鶴見区人口ピラミッド (R2.10.1 現在)

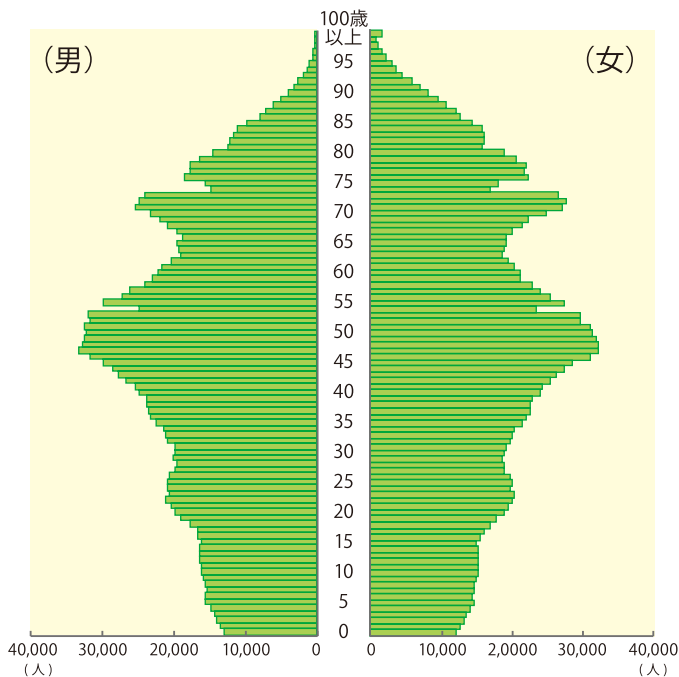


人口ピラミッドの特徴としては、第2次世界大戦終戦前後(★1)に出生減があり、その後第1次ベビーブーム(★2)、第2次ベビーブーム(★3)によって大きく膨らんでいます。また、その間にある大きな凹み(★4)は、1966年(昭和41年)の丙午による出生減となっています。

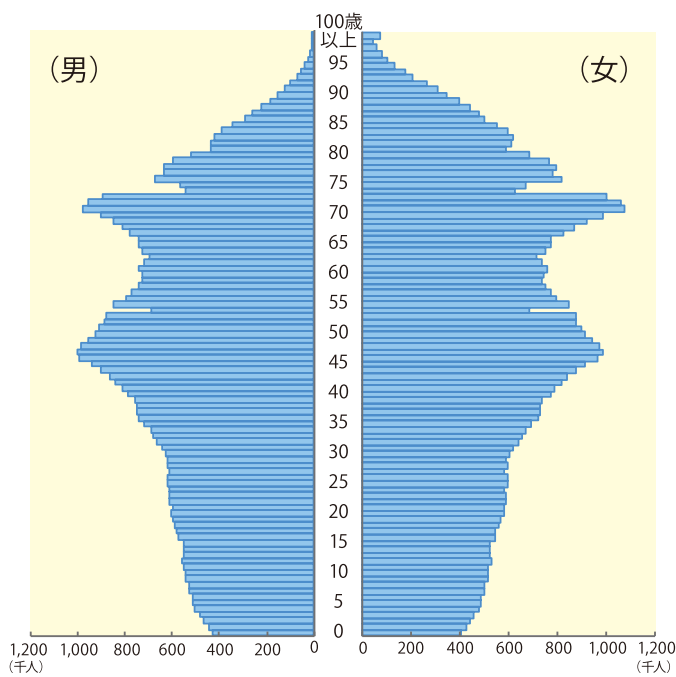
鶴見区の人口ピラミッドの特徴としては、40歳代後半の第2次ベビーブーム時期の人口が、70歳代前半の第1次ベビーブーム時期の人口より大きな山を描いています。また、15歳未満の年少人口が、横浜市や全国は減少傾向が続いていることに比べ、微増から横ばい傾向となっています。

資料: 令和2年国勢調査

横浜市人口ピラミッド (R2.10.1 現在)



全国人口ピラミッド (R2.10.1 現在)



● 人口増減・社会増減・自然増減の数 (令和2年中)

資料: 横浜の人口 人口動態と年齢別人口

	人口増減	社会増減	自然増減
鶴見区	237人	469人	-232人
横浜市	5,278人	13,481人	-8,203人

● 行政区別平均年齢 (R2.10.1 現在)

資料: 令和2年国勢調査

平均年齢が低い区	順位	平均年齢が高い区
都筑区 (42.97歳)	1位	栄区 (49.26歳)
港北区 (43.74歳)	2位	旭区 (48.82歳)
西区 (44.23歳)	3位	金沢区 (48.61歳)
鶴見区 (44.27歳)	4位	港南区 (48.50歳)